

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連		衣料品専門店（店舗運営）	・店舗形態の変更やリニューアルを予定している。
		商店街（代表者）	・買い控えの反動で、季節要因以上の期待感はあるが、量としてはそれほど伸びると見込めない。
(北陸)		商店街（代表者）	・大雪のため、除雪作業の特需によって売上増となった建設関係の企業が多いようである。おこぼれが浸透してくることを期待している。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・新学期や新年度のタイミングに重なり、関連商品の売上が見込める。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・春の観光シーズンに入り、観光客は増加すると見込んでいる。例年の4月以降は売上が増加する。
		百貨店（売場主任）	・4～5月にかけて、一部の生活必需品や電気料金が値上げとなるが、4月以降の値上げによる消費の拡大に期待している。
		百貨店（営業担当）	・お花見やゴールデンウィーク、母の日などのイベントが続き、観光客やフリー客が増えることで、売上が期待できる。
		コンビニ（店舗管理）	・自社で内製している米飯の値上げを決意した。原料価格高騰で圧迫されている利益率が改善される見込みである。
		家電量販店（店長）	・エアコンの需要が高まる傾向にある。
		乗用車販売店（従業員）	・新たな独自イベントによって、一層の集客を期待している。
		自動車備品販売店（役員）	・新車販売が好調に推移しており、自動車用品の同時購入も増えている。人手不足を解消するための処遇改善や時給単価向上などの動きが、消費の後押しになっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経営管理）	・急な陽気で一気に着るもの食べるものが変わりだしている。販売面での工夫はしており、必要な物に対する購買意欲はあると考える。
		観光型旅館（スタッフ）	・3月以降の予約保有は120～130%で推移している。団体客募集の成約率が上がっていることも要因にある。
		旅行代理店（支店長）	・春の修学旅行シーズンを迎え、販売量の増加が見込める。
		タクシー運転手	・工場関係の送迎の予約が、結構入ってきている。
		タクシー運転手	・これから観光客が増えてくる。また、新年度に入ると歓迎会などもあり、何かと仕事が増えると見込んでいる。
		通信会社（役員）	・新サービスの導入効果が継続し、契約数が増えると見込んでいる。
		競輪場（職員）	・例年4月は売上が良い時期であり、僅かではあるものの売上が上昇傾向にある。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅業界においては、消費税の引上げを意識した客に向けた営業活動が本格化することで活気が出てくる。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローンの融資金利が低いと、客の動きがより活発になる。
		住宅販売会社（営業）	・消費税の引上げを見越した動きが活発化しそうである。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・肉ブームの影響もあってか肉の販売量が好調である。一方で、魚や野菜の動きが鈍く、来月もそのまま推移するのではないかとみている。
		百貨店（販売促進担当）	・春闘での値上げ報道や国際情勢の和解ムードが広がっているものの、政治に対する不信感が日々増してきており、依然として根本的な消費マインドの改善がみられない。
		スーパー（店長）	・今のところ変わる様子はない。
		スーパー（総務担当）	・新たなドラッグストアチェーンが出店してきているため、競合商品は売上減少となりそうである。今後は食品スーパーとして、景気の変動を受けにくい生鮮商品に一層の重点を置いて販売する。
	スーパー（総務担当）	・人手不足感が続いており、価格競争は激化しているものの、特に景気を左右するようなことはない。	
	スーパー（統括）	・消費動向に変化が現れる兆候はない。	
	スーパー（店舗管理）	・大雪による影響後も客単価は上がっている。来客数は以前の状態までは回復できていない。	
	コンビニ（経営者）	・来客数、客単価共に大きな変化がない。	
	衣料品専門店（経営者）	・天候とともに、上向きになっていくと期待している。しかし、株価の急落など不安定な要因もあるため、気が抜けない。	
	家電量販店（本部）	・変動要素が見当たらない。	
	住関連専門店（役員）	・食品の高騰や新生活への出費が続く時期であるため、嗜好品への支出は後回しになるようである。さらに、米中貿易競争などの世界経済不安や消費税の引上げも控えており、厳しい状態が続くと考える。	

	その他専門店〔酒〕 (経営者)	・雪が解けて普通の生活状態に戻っても、状況は全く振るわない。これはまさしく、地面をはいつくばった状態が今後も続くということである。
	その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・客の買い控え感は見られないため、来客数が戻ってくれば全体的に底上げが期待できる。しかし、衣料品は長期トレンドで苦戦しており、それが根本的に改善されない限り、引き続き前年並みの推移にとどまる見込みである。
	高級レストラン(スタッフ)	・ゴールデンウィーク後は、秋の行楽シーズンと並んで団体予約の多い時期だが、例年比99%ほどで受注は推移している。
	一般レストラン(店長)	・なかなか回復のきっかけは見当たらないが、人の動きが良くなることを期待している。
	スナック(経営者)	・相変わらずの2極化と、先々のマイナスとプラスの状況で違ってくることから、何ともいえない。
	都市型ホテル(役員)	・宿泊部門に関しては、インバウンドを含め予約状況は例年と同様の傾向にある。レストラン部門では、一部店舗において定休日を隔週設定したことにより、若干の減少傾向にある。宴会部門は例年と同程度の予約状況である。全館では大きな変動はないと見込んでいる。
	旅行代理店(所長)	・平昌オリンピックが終わり一服感がある。ゴールデンウィークの間合せも特に多くないため、落ち着いた状態である。
	通信会社(職員)	・国体や北陸新幹線延伸といった大イベントが控えるものの、一向に盛り上がりを感じられない。
	通信会社(営業担当)	・スマートフォンの学生割引キャンペーンで、多くの客が来店している。にぎわいを少し取り戻したかのようにみえるが、前年と比べると販売量に大きな差はない。
	通信会社(役員)	・新年度には新たな契約獲得施策を計画している。現在の獲得基調からみて、しばらくは契約獲得数の好調が続くものとみている。
	テーマパーク(役員)	・北陸新幹線開業から4年目に入り、波及効果は落ち着いている状況である。前年同月比でも、今後2~3か月先は同様の状況が続くそうであり、先行きは変わらないと考える。
	パチンコ店(店員)	・遊技機の規制が緩和されるか、ギャンブル性が低くても客に支持される機種をメーカーが作るかしないと、業界が成り立たないときがきているのかもしれない。
	一般小売店〔書籍〕(従業員)	・紙類や包装資材、家庭紙などの値上がりが控えているため、今後は客の買い控えが起こりそうである。
	スーパー(店長)	・世界情勢や東アジア情勢がどうなるか、先行きが見通せない。
	乗用車販売店(経営者)	・例年どおり繁忙期を終えると、販売量は極端に減少する。そのため、やや悪くなる見込みである。
	一般レストラン(統括)	・4月より日常生活に關係する食品関連の値上げ発表が相次いでいる。そのため、少し節約志向に動くともっている。節約志向になると荷動きが多くなる食品をみると、豆腐などの出荷量が増えている様子である。
	観光型旅館(経営者)	・5月以降の予約状況が非常に悪く、夏休みに入るまでの期間の売上が心配である。また、4月以降にビールや食品の値上げがあり、収益悪化を懸念している。
	都市型ホテル(スタッフ)	・食材の仕入価格が値上がりしているが、販売価格に転嫁できない。一般世帯における電気やガソリン、社会保障費などの値上がりが、消費支出を抑える要因になっている。
	通信会社(営業担当)	・3月をピークとして新しいスマートフォンの需要が終わるため、落ち着いてくる。
	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕(総支配人)	・1年で最も入会数が増える時期だが、競合施設の低価格攻勢が影響しそうである。
	美容室(経営者)	・国内の政治問題や朝鮮半島問題、各国の保護主義的な動きなど、余りにも国際政治状況が悪すぎる。
	x	-
企業 動向 関連  (北陸)		-
	プラスチック製品製造業(企画担当)	・現状の受注状況から持ち直しの動きも出てきており、やや良くなると思う。
	輸送業(配車担当)	・取引先に対する運賃値上げが進み、利益の出やすい環境になっている。問題点は人手不足である。特にドライバー不足が深刻な状況になっており、仕事をしたくてもトラックを扱う人材が不足しているため、今後は厳しい状況になっていく。

	金融業（融資担当）	・インバウンドを中心とした観光客の増加とホテル開業が続く効果もあり、中心市街地が活性化している。中心部で土地を求める業者も多く、様々な開発形態によって新たな需要が喚起される機運が高まっている。
	不動産業（経営者）	・同業者からの話では、物件の問合せや売買の客が増えているということである。
	司法書士	・北陸新幹線関連工事とそれに伴う駅周辺の再開発事業、ホテルやマンションの建設が進んでいる。
	食品品製造業（経営企画）	・今月は低調だが、このまま受注量が下がっていくとは考えていない。
	繊維工業（経営者）	・今年の衣料は、秋冬商材の受注状況が非常に良い。一方で、人手不足には大変苦労している。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況を見て、変わらないと判断した。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・米国による鉄鋼とアルミニウムの輸入制限措置の影響が、今後どこまで広がるか先行きが不透明である。米国に拠点のある日系自動車関連企業向けへの輸出に対し、影響が出ることを懸念している。さらに、為替も円高傾向にあるため、今後の収益減への影響も不安要素になっている。
	精密機械器具製造業（役員）	・販売先における好不調の状況は、それぞれ大きく変化しないと考える。また、同業のメーカーからは、人材採用が難しいとの話を聞いている。
	税理士（所長）	・製造業や設備関係によると、設備関係が例年5～6月が谷間になることから、季節要因もあり、少し下がるのではないかとのことである。個人の給料が伸びずに諸物価の値上がりが多くなってくると、社会保険関係の負担もあることから、個人消費がどうなっていくか非常に心配である。良くなる面と悪くなる面の平均で、変わらないという判断をしている。
	繊維工業（経営者）	・コストアップがめじろ押しというなかで為替も円高に向かっており、輸出関連企業にとっては先行きが心配である。また、コストアップ部分について販売価格への上乗せを依頼しているが、なかなか厳しい状況にある。販売量的には問題ないかもしれないが、収支面では大変苦戦しそうである。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・米国の保護貿易政策により、景気不安感が広がれば設備投資の動きは停止する。今後の世界経済の動向に注視が必要である。
	建設業（役員）	・首都圏においては受注価格競争がしばらくは緩和状態となる見込みである。当地域では安値受注が拡大傾向にあり、受注価格競争は厳しい状況になりそうである。
	金融業（融資担当）	・酒類卸に聞いたところ、業務用ビール価格が値上げになるので、飲食関係の需要が前倒しになると考えていたが、ほとんどそのような動きはないとのことである。また、株式市場の下落と円高による景気への影響を心配しているとの声も聞く。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・3月も前年同月を下回っている。一部の業種での出稿減だった状況から、全体的に業種を問わず出稿減となっている。
	x	-
雇用 関連  (北陸)	-	-
	職業安定所（職員）	・製造業や建設業を中心に求人の高まりが継続している。
	人材派遣会社（役員）	・有期雇用契約の求人には求職者の関心が少ない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用が発生する動きがない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告全体の数は前年よりも下がってきている。どのようにしても人が足りないという、前年のような状況ほどではないのかもしれない。
	職業安定所（職員）	・賃金を引き上げるとの話が聞こえてこない。
	民間職業紹介機関（経営者）	・定期入社社員数補充によって求人需要の緩和があるものの、思うようには人材確保が進まなかったところも多く、正社員や派遣紹介の求人数はまだ継続するとみている。
	学校〔大学〕（就職担当）	・前年同期と比べ、求人訪問に来る企業が地元企業だけでなく大都市圏からも増えている。売手市場の状況は、今後も変わらないと考える。
	-	-
	x	-